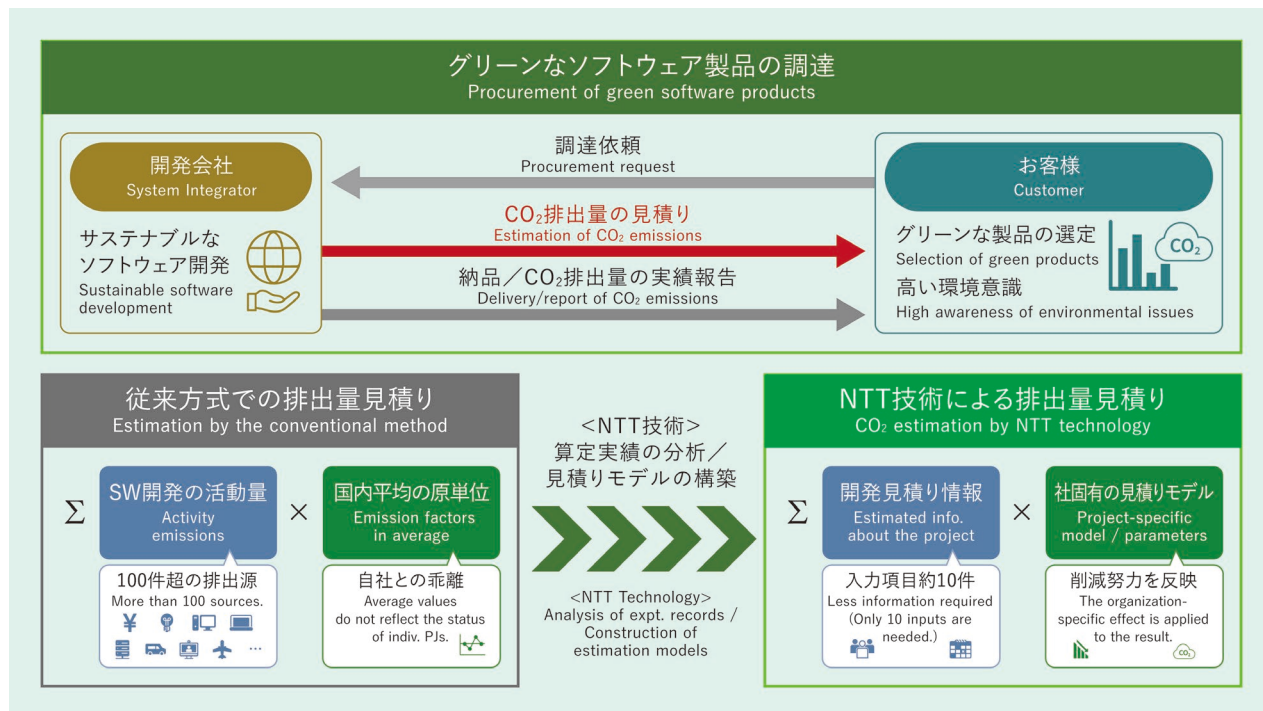


ソフトウェア開発のCO₂排出量を従来よりも大幅に少ない情報で精緻に見積りできます ソフトウェア開発前のCO₂排出量推定技術

背景 – 技術課題

標準的なルールに沿った精緻なCO₂排出量の見積りには、さまざまな排出源の活動量を想定する必要があるため、ソフトウェア開発前の段階では算定が困難でした。また、国や業界平均の原単位には会社固有のグリーン施策の効果が反映されていないため、過剰な見積りとなることが懸念されます。



研究目標 – 成果

環境負荷低減をビジネス価値とする「ソフトウェア製品のグリーンな調達」における競争力確保に貢献し、ソフトウェアサプライチェーンの脱炭素化を実現します。

技術ポイント

01 要素技術

- ソフトウェア開発の算定実績を分析し、自社のグリーン施策を反映した見積りモデルを構築する技術
- ソフトウェア開発における見積り情報から、見積りモデルを用いてCO₂排出量を推定する技術

02 市中技術差異点

標準的なルールにおける算定では100項目以上の活動量を想定する必要があるが、本技術では自社固有の見積りモデルと約10項目の活動量によりLCAの専門知識がない開発メンバーでも精緻に見積ることが可能

利用シーン 公共サービス・自治体

R&Dフェーズ 開発

技術確立予定時期 FY25-26

ビジネス化予定時期 未定

【出展企業】
NTT株式会社 コンピュータ＆データサイエンス研究所

【共同出展社/社外連携先】
株式会社NTTデータグループ

【問い合わせ先】
革新的コンピューティングアーキテクチャ研究プロジェクト

【関連Link】
https://www.rd.ntt/sic/research/greensoftware2025_j.html